

# 自動運転AIチャレンジ2026 スポンサーのご案内

2025年12月

公益社団法人 自動車技術会



# 自動運転AIチャレンジについて

- 自動車技術会が主催する「自動運転AIチャレンジ」は、新技術領域の育成事業として2019年の初回開催以来発展を続け、2026年で8年目です。予選競技をオンラインのシミュレーターで、決勝競技を実車両走行で行う本大会は、ソフトウェア人材に対してモビリティを動かす楽しさを知ってもらう国内でも貴重な機会です。
- 最大の特色は、一般的なコンペティションの常識を覆す「知識と経験の積極的な共有」を奨励している点にあります。通常、競技では手の内を明かすことは不利になりますが、本大会では、参加者同士がオンライン・オンサイトの場で互いの知見や課題解決法を共有し合う「助け合いのコミュニティ」が強く根付いています。

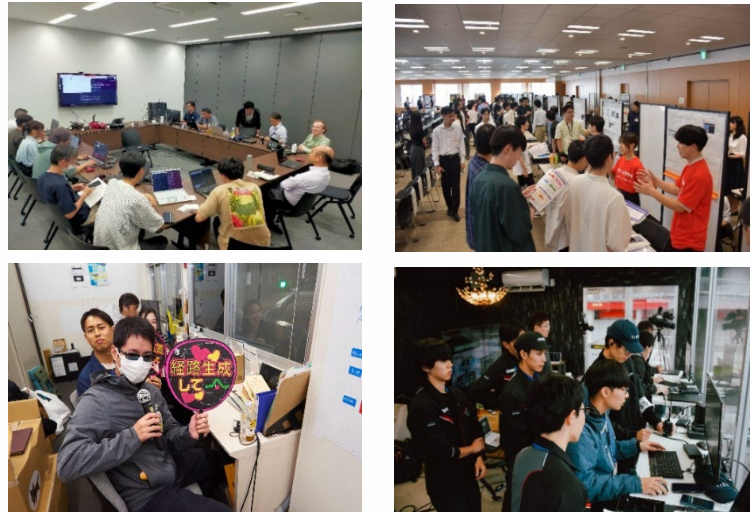
企業・学生の垣根を超えたこの開かれたコミュニティは、技術者にとって貴重な「学びの場」とすると同時に、「有機的な繋がり」を生み出す交流の場です。

過去大会の様子



シミュレーションと実車両を用いた競技

大会コミュニティ



参加者間の知識共有と交流が特徴！

# 自動運転AIチャレンジ2026 開催（案）

## 【自動運転AIチャレンジ2026の開催重点方針】

- 1. 競技の充実 – 裾野拡大・最新技術の連携
- 2. スポンサーと競技参加者との接点拡大

2026年度大会は、上記方針に基づき、従来の参加しやすい自動運転ソフトウェアのアルゴリズムを競う競技に加えて、E2E AI技術を競う部門の新設を検討しております。これにより、幅広い参加者の巻き込み及び最新技術の連携を目指し、競技の充実を図ります。

また、接点拡大の面ではこれまではオンラインでのみ行っていたシミュレーション競技をオンサイトでも実施し、より多くの参加者とスポンサーが現地で交流できる機会を創出して参ります。

## 【自動運転AIチャレンジ2026 開催概要】

予選	シミュレーション (オンライン)	日程	2026年夏
		会場	オンライン
		参加者数 (見込み)	300チーム 700名 (25年度 249チーム 584名)
		内容	OSS・シミュレーター・オンライン採点環境を利用した誰でも参加可能な競技
		備考	従来のソフトウェア技術を利用した競技に加えて、E2Eなど新技術領域を利用した競技も検討中
決勝	シミュレーション (オンサイト)	日程	2026年秋
		会場	東京都内のイベント会場
		参加者数	数十チーム
		内容	複数台走行を検討中
		備考	競技後は交流会を実施
	実車両競技※	会場	クローズド環境の施設
		内容	実車両を用いた競技
決勝 表彰式 ※	日程		2026年 晩秋
	会場		未定
	参加者数		100名
	同時開催企画		参加者によるプレゼンテーション

※EVレーシングカートを利用した実車両による競技の実施規模につきましては、2026年6月末までに集まったご支援金額に基づいて最終的な判断を行います。

## 大会フローチャート イメージ



# スポンサー支援金額と特典について

2026年度 スポンサーご支援金額（税込）					
☆プラチナスポンサー	220万円	☆ゴールドスポンサー	110万円	☆シルバースポンサー	55万円
☆ブロンズスポンサー	22万円				

2026年度のスポンサー特典につきましては、各クラスの魅力を一層高めるため、ご支援いただく皆様のニーズに合わせた選択制のオプション特典の導入及び特典内容のさらなる充実・見直しを現在検討しております。  
すべての特典の詳細は2026年1月頃にあらためてご案内予定です。

## (参考)2025年度 スポンサー特典

#	スポンサー特典項目	プラチナ	ゴールド	シルバー	ブロンズ
1	プレゼンテーション企画における企業ブースの設営	○	○	-	-
2	同意を得た競技参加者情報の提供	○	○	-	-
3	配信ページへの企業ロゴ掲載及びURLリンク掲載	○	○	○	-
4	予選競技採点ウェブサイト(一般公開)への企業ロゴ掲載及びURLリンク掲載※	○	○	○	-
5	決勝競技会場に企業名看板設置	サイズ 大	サイズ 中	サイズ 小	-
6	大会専用SLACKに採用情報・インターン情報の掲載	○	○	○	-
7	大会公式webサイトに企業ロゴ及びURLリンク掲載	○	○	○	○
8	大会パンフレットへの企業ロゴ掲載	○	○	○	○
9	スポンサーボードへの企業ロゴ掲載	○	○	○	○
10	配信映像への企業ロゴ掲載	○	○	○	○
11	決勝・予選各表彰式への出席	○	○	○	○

※天候等の不可抗力による大会の中止等による返金・補償はございません。※掲載の内容は予告なく変更になる可能性があります。予めご了承ください。





# シルバースポンサー以上のロゴ掲載イメージ（#2～3）

## 配信ページへのロゴ掲載(#2)



決勝競技期間に配信映像を掲載する大会HPトップサイトへのロゴ掲載

参考：<https://www.jsae.or.jp/jaic/2025ver/>

## 決勝競技会場に企業ロゴ横断幕の設置(#3) プラチナ～シルバーまで



## スポンサー特典（#4） 大会専用SLACKに採用情報・インターン情報等の掲載

過去大会参加者を含めて、900名以上が参加している大会専用SLACKのスポンサーチャンネルにて採用情報等を掲載可能です。

SLACK内DM機能にて興味を持った参加者から個別に連絡をもらうこともでき、広報から関係づくりまでシームレスに行うことが出来ます。

投稿回数・頻度に制限なく、大会期間中は投稿が可能とする予定です。



## ブロンズスポンサー以上のロゴ掲載イメージ（#5-8）

大会公式ウェブサイト及び会場内パンフレット 掲載例(#5,6)



## 配信映像への企業ロゴ掲載例(#7)



## スポンサーボード ロゴ掲載例(#8)



## 参考資料

－自動運転AIチャレンジの目指す人材育成の姿－



# 大会の意義と貢献

- これまでの自動運転AIチャレンジではこれからの自動車業界を牽引する技術者の発掘育成のため、以下の取組を実施しています。

## (1)人材発掘

- 会場・競技素材変更による訴求力の向上による参加者数増加、満足度向上
- 自動車産業、ソフトウェア、各大学等からの参加が増え、裾野が拡大



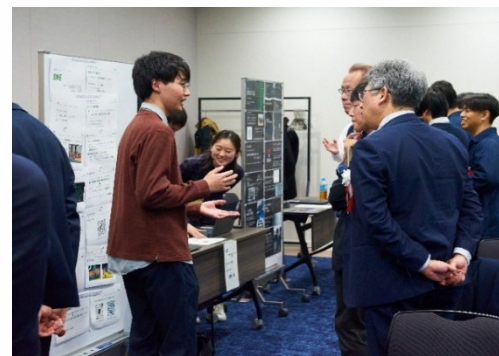
## (2)人材育成

- シミュレーター導入から、実車兩走行まで、各段階におけるサポート体制



## (3)人材交流

- 交流会の充実による自動車産業との接点増加
- 参加者間の情報交換・交流の促進



# (1) 人材発掘

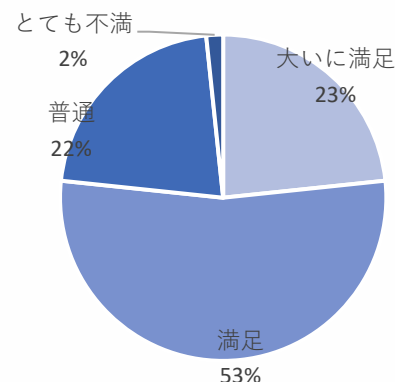
- 会場・競技素材変更による訴求力の向上による参加者数増加及び満足度向上

大会毎の参加者推移

年度	名称	社会人	学生	合計
2019年	第1回	3	8	11
2020年	第2回	53	17	70
2021年	第3回	177	56	233
2022年	インテグレーション	308	100	408
2022年	シミュレーション	205	86	291
2023年	インテグレーション	188	66	254
2023年	ForRookie	42	142	184
2023年	シミュレーション	114	57	171
2024年	2024	237	154	397
2025年	2025	355	229	584

満足度調査(対象:2025大会予選参加者)

Q. 自動運転AIチャレンジ予選競技の満足度(「大いに満足」～「とても不満」5段階評価、総回答60件)



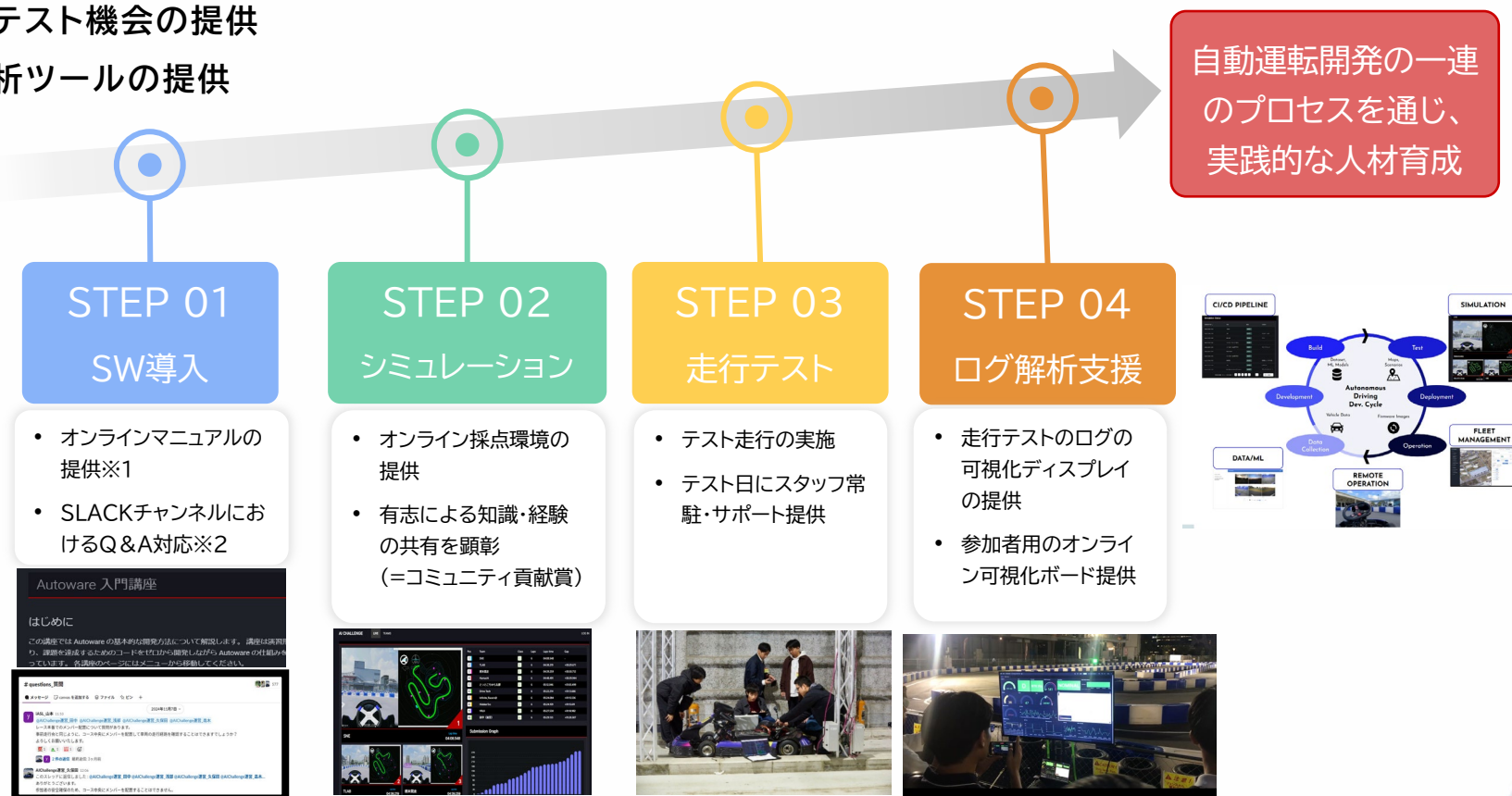
- 自動車産業、ソフトウェア、各大学等からの参加が増え、裾野が拡大

参加者所属大学(一部): 会津大学、大阪大学、岐阜大学、千葉工業大学、筑波大学、東京大学、同志社大学、東京理科大学、名古屋大学、明治大学、横浜市立大学、立命館大学、早稲田大学など

参加者所属会社(一部): dSPACE Japan、トヨタ自動車、SUBARU、日立産業制御ソリューションズ、三菱電機ソフトウェア株式会社、ヤマハ発動機株式会社、その他フリーランス多数。

## (2) 人材育成

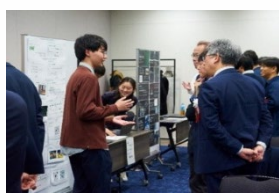
- シミュレーター導入から、実車両走行まで、各段階における充実したサポート体制の提供
- 実車両テスト機会の提供
- 走行解析ツールの提供



### (3) 人材交流

#### ● 交流会の充実による自動車産業との接点増加

表彰式でプレゼンテーションが行われ、チームが大会に臨んだ際の工夫点等を発表しました。その後、会場内の個別ブースにてスポンサー(自動車産業)からの質問を受け付けるQ&Aタイムを実施しました。また、式後に立食パーティーを開き、親睦を深めました。



#### ● 参加者間の情報交換・交流の促進

コミュニティ貢献賞を設置し、参加者が自身の経験を他参加者に共有することを推奨し、「車輪の再開発」を避け、大会全体のレベル向上と参加者間の交流を同時に達成しております。



参加者作成の自動運転AIチャレンジ関連記事(一部)※1

※1 <https://qiita.com/advent-calendar/2023/jidounten-ai>

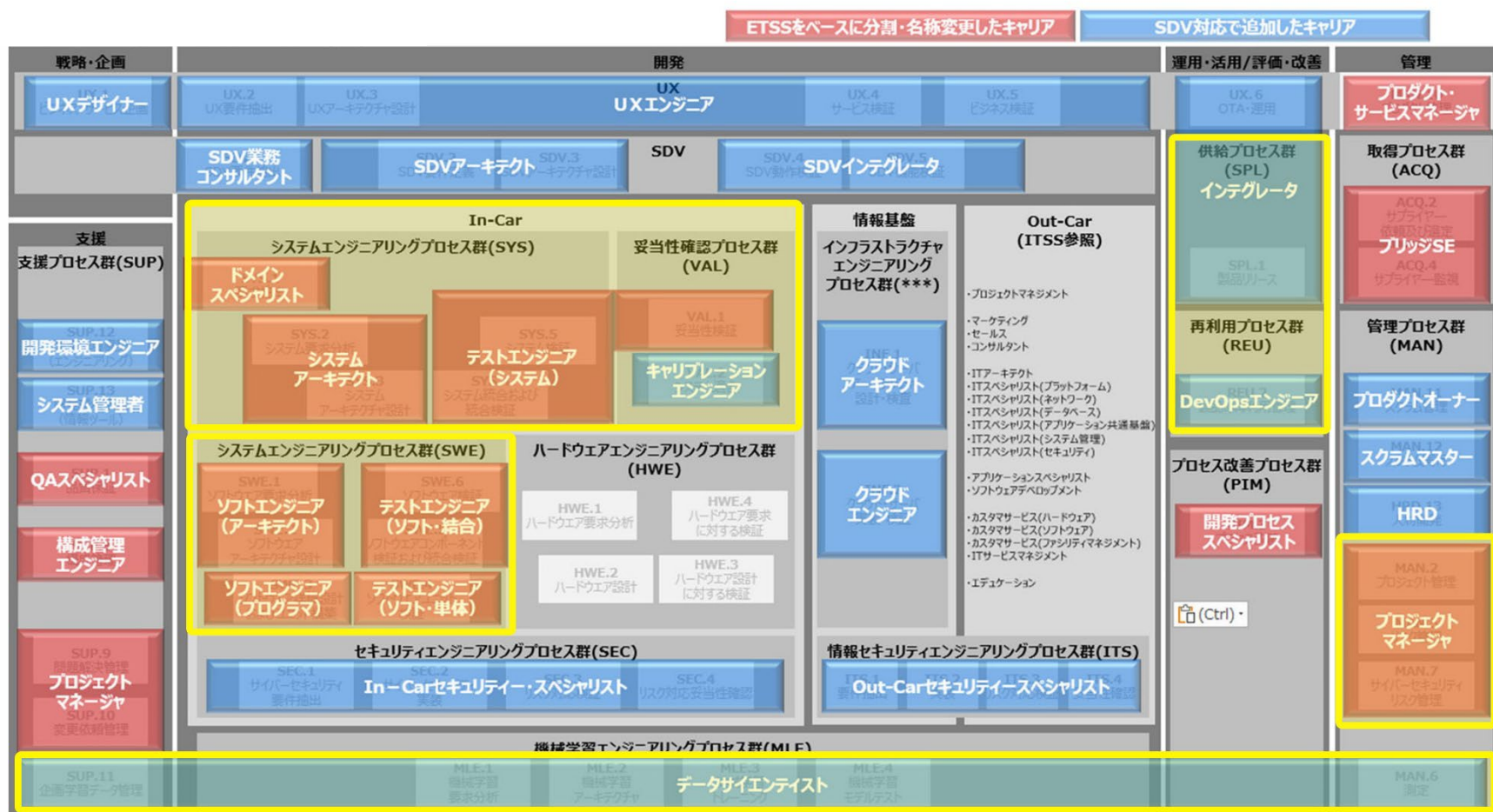
※2 <https://challenge-club.connpass.com/event/330226/>



有志によるオンラインミーティング※2



経済産業省が主導するモビリティDX戦略に基づき、2024年度に自動車技術会が策定した『SDVスキル標準』に基づき、SDV時代において自動車業界が必要とする人材の育成を行っております。



(公社) 自動車技術会 自動運転AIチャレンジHPより  
<https://www.jsae.or.jp/jaaic/2025ver/about/>

